



家事を教える父親

コロラド家（アメリカ・マウンテンビュー市）では父親が子供に台所で肉の切り方を教えていた。こうした家事分担の中でのお話を通じて、父親が子供のしつげに大きな役割を果たしている。

第3回家庭婦人 海外派遣団研修報告

- 研修テーマ 住みよい地域づくりに果たす家庭の役割
- 日程 57年9月21日～10月13日（23日間）
- 訪問国 西ドイツ、スイス、フランス、イギリス、アメリカ
- 団員 20名



働く婦人もボランティア活動

マウンテンビュー市の小学校の先生、アニタ・ニコルスさんは、週五回・夜、ボランティアとして、難民の子供たちに英語を教えている。働く婦人も自分の特技をいかし、労をいとわず地域社会のためにつくしている。



施設福祉に頼る西ドイツの老人たち

レーゲンスブルグ市（西ドイツ）の老人ホーム。同市の施設入居率は七・一％、この施設の収容人員は二百人。現在二百人の入居希望者が順番待ちとなっている。
三世代同居がほとんどない西ドイツの老人の生活や介護は、施設に頼らざるを得ないのではなからうか。



はじめ

何かをはじめたい

まして

あなたへ

グループ情報



地元商店街の発展を

菊川町商工会婦人部

菊川町では、近代的なまちづくりを目指した、駅前の都市改造がすすめられている。その一角にある商工会の事務所を活動の拠点に、婦人も地域商店街の振興発展のために積極的に参加している。百五十名の会員が活動している。

最近では、町外の大形店に客が流れ、地元の商店で買物をする人が少なくなっている。地元の商店で、もつと買物を……そんな願いから、商工会では町内全戸加入の消費者協会と年五回懇談会をもっているが、そのうちの一回を婦人部が担当している。

この努力が実り、「買物は地元の商店で」という気運が高まってきたという。また、店をやっていくための知識として、簿記・青色申告の講座も始め、女の細腕で商家を担っている、熱の入った勉強会が開かれている。

従来、男性の仕事である商店経営の場に女性が積極的に参画し、商店街発展のために努力している姿に新しい婦人活動の方向を見る思いがした。

小笠郡菊川町堀之内五〇番地の七

代表者 西沢はる (☎五七三二二四一)

知恵と能力とバイタリティー

浜松婦人懇話会

子育て終了後の主婦たちが、社会への再出発を願い、自から資金と労力を出し合って四年前、十八名で発足した。またの名をフェミニスト・サロンという。現在会員四十二人。

経済的自立につながる主婦の能力の再開発を目指している。活動の拠点として浜松市の中心街に近いガレージの二階を借り、次の三つの事業を中心に活発な活動をしている。

(1) トレーニング・センター

再就職に役立つ技術習得のための文章教室、手編み、造形、英語講座、職場の人間関係学。

(2) セミナー

女性学講座、講演会、映画会。

(3) カウンセリング・ルーム
女性の悩みごとの電話相談、面接相談。

さらに新しく、高齢化社会での人間関係、老いの心理学、老人看護、介護技術などを学ぶ「ホームエイド講座」を開設した。

これらの講師陣には市内の大学教授を活用するとともに外国の婦人たちの交流も盛んで、その行動力はすばらしいものがある。

浜松市塩町一三一番地の七

代表者 佐藤和子 (☎五三三六二五二)

寝たきり老人の

介護のもんだいを考える

ボランティアグループともしび

会のリーダーである笹瀬さんは寝たきりとなった舅を四年間の介護の後、見送った体験がある。当時、近所にも同じように介護をしている人があり、いろいろなことを話し合うようになった。この話し合いが発展し、ボランティアグループの発足につながったという。現在では、在宅老人介護経験者と現在介護をしている主婦五十六名が会員となっている。寝たきり老人を抱える町内の三十世帯を、隔月発行する会報を持って訪問し、介護者を励ましていく。ま

郷土の民話をかけ絵で

かもめグループ

人々から忘れ去られている郷土の民話を私たちの手で地域の人や、子供たちに語り継いで行きたい。このことが地域づくりや青少年の健全育成に役立ったら。こんな願いが発端で「かけ絵」による民話伝承活動を始めたかもめグループは、大井川町上泉を中心に、四十代後半から五十代の子育てを終えた主婦二十六名の集まり。絵心などまったくなかった素人ばかりで五十七年四月スタートした。

手始めに「三八どん」^{三八どん}「仏蔵のキツネ」^{仏蔵のキツネ}の二つの民話を「かけ絵」にした。脚本、人形製作、音楽、台詞、演出すべて自分たちで行った。子供たちには大好評で、

いまでは町内の公民館、幼稚園、保育園などからひっぱりだこになっている。やがて子供たちが巣立ったとき、わがふる里に想いをかけて欲しい、少しでも郷土との絆になれば……、会員みんなの思いである。

これからも、民話のかけ絵づくりを通して婦人たちの連帯を深め、子供たちの

た、知人の声を録音して届ける。

特別養護老人ホーム「松寿園」に週一回入浴介助の奉仕をしながら介護技術を身につけるなどの活動をしている。

さらに、五十七年からは洗髪器を備え活動をすすめようと考えた。ところが、「他人には世話をさせられぬ」という意識が寝たきり老人を抱える家族の利用申し出をひかえさせている。善意だけではすまぬボランティア活動のむずかしさを痛感したという。そうした経験から、老人の介護を地域社会全体で背負っていくにはどうしたらよいか模索中という。

小笠郡小笠町河東一四〇一番地の一

代表者 笹瀬まさ子 (☎五七三二二五三)

健全育成に役立てたいと頑張っている。

志太郡大井川町上泉三二七五番地の二

代表者 山下 寿 (☎四三二二二三一)



婦人のための事業紹介

〈健やか育児推進事業〉

県・保健予防課

心身障害の発生防止と、健康で豊かな心を持った子を育てようと、県保健所を中心に次のような事業が進められています。

◆ 社会人教育

県下十七保健所で受胎調節、結婚妊娠の保健、育児等をテーマに、毎月一回開催しています。どなたでも参加できます。

◆ 母親教室

県下八保健所（下田・松崎・御殿場・富士・富士宮・清水・榛原・天竜）で、妊娠中の異常、栄養、育児、しつけ、家族計画などをテーマに毎月（一カ月八時間）で一教（程）実施しています。

参加対象は妊婦さんです。

◆ 乳幼児発達等総合相談

県下四会場（下田・沼津・藤枝 磐田各保健所）で、おおむね隔月ごとに開催しています。

乳幼児健診などで精神発達面、運動機能等に遅れや障害を疑われた乳幼児を対象に専門医師、心理判定員などが総合的に相談指導をします。

◆ 背の伸びない子供の検診

県下四会場（下田・沼津・藤枝

磐田各保健所）で年二回程度開催しています。

対象は三歳児で標準以下の低身長児を、内分泌及び骨系統異常を主に検診し、異常の早期発見、早期療育を進めています。

このほかの健やか育児推進事業としては、脳性マヒの早期発見や遺伝相談への対応などのために、専門技術者の養成、あるいは母乳育児推進のための啓発、さらに乳幼児のしつけ、性教育、医療の目からみた現代の子供、といったことなどをテーマにして子育てのための講演会を開催しています。

この他、保健所では、健康な赤ちゃんを産み、また育てるために、妊産婦さんの健康相談、保健指導、人工妊娠中絶や家族計画の相談、三才児など乳幼児の健康診査や訪問指導などをはじめとして、次の事業を行っています。

◆ 妊婦健康診査

妊娠届を提出した妊婦さんに、健診受診券を母子健康手帳と共に交付し、県が委託契約を結んだ医療機関（病院及び産婦人科医二九八カ所）で受診してもらいます。受診券は一人一回で公費負担と

なっています。

◆ 妊娠中毒症等療養援護

妊娠中毒症、糖尿病などで妊娠出産に支障をきたすため入院治療を受けている妊産婦さんに、援護費の支給をしています。

ただし、所得税非課税世帯などの条件があります。

◆ 妊産婦訪問指導

妊婦健康診査の結果、身体的、あるいは生活環境等で訪問による指導が必要な妊産婦さんを対象に助産婦、保健婦等が訪問し必要な援助を行っています。

◆ 先天性代謝異常等検査

先天性代謝異常とは、新陳代謝の過程で酵素の障害が起きるためその酵素の働きによって代謝されるべき毒性物質が体の機能障害をひきおこすもので、特に知能障害を伴うことが多いといわれています。

検査は、各医療機関が保護者の希望により新生児から採血をして検査します。

新生児期に異常が発見され適切な治療を続けられ身体的にも精神的にも正常に発達することができ

◆ 保健所一覧

- 下田保健所 ☎ 〇五八二 二二二四九〇
- 松崎保健所 ☎ 〇五八四 二二〇二六二
- 熱海保健所 ☎ 〇五七八 三三六一六一
- 修善寺保健所 ☎ 〇五八七 二二三二一〇
- 御殿場保健所 ☎ 〇五五〇 二二二二二二
- 沼津保健所 ☎ 〇五九二 二二一一一一
- 富士保健所 ☎ 〇五五五 二二五〇一一
- 富士宮保健所 ☎ 〇五四四 二二七一一三一一
- 清水保健所 ☎ 〇五四三 六七一一一四一一
- 静岡市中央保健所 ☎ 〇五四二 五五五七八一一一
- 静岡市南保健所 ☎ 〇五四二 八五一一八一一一
- 藤枝保健所 ☎ 〇五四六 四一一二五〇一一
- 島田保健所 ☎ 〇五四七 七一一五二九一一
- 榛原保健所 ☎ 〇五四八 二一一一五一一
- 掛川保健所 ☎ 〇五三七 二一一三二六一
- 磐田保健所 ☎ 〇五八三 四一一一一二一一
- 天竜保健所 ☎ 〇五九九 五一一三一一四一一
- 浜松市保健所 ☎ 〇五四四 五二一六一一一八
- 浜名保健所 ☎ 〇五五九 四一一三六六一
- 三ヶ日保健所 ☎ 〇五五三 五一一〇八一一一



創刊号を読んで

読者からの声

はどういう手続きが必要なのか、といったニュースが取り込まれていなかったのが残念です。

静岡県 興津洋子 30代

浜松市 石井康男 50代
 ♥「女性の手で新しい時代をささぐ」といっても何をすればよいのか、とまどいを感じる女性が多いのではないのでしょうか。
 私たちの身近な中で、女性にもやれば出来るようなニュースを多く取り入れてほしい。

浜松市 岡田美喜代 30代
 ♥高等職業訓練校の体験談は、大変参考になりました。これからも、いろいろな体験談をのせてほしいと思います。

浜松市 森岡浩世 20代
 ♥創刊号のせいか、各テーマの内容が表層だけをとりえているのが不満でした。
 今後は、もっと具体的な情報を流してほしいと思います。とくに、職業訓練校などを取り上げた場合、そこで何を学べるのか、学ぶために

♥一番興味を持って読んだ記事は、共働き家庭をレポートした「家庭では」と再就職した女性の話を載せた「職業では」のページです。女性の生き方を問う本は現在何冊も出版され、いわゆる「考えさせる本」は書店に並ぶ単行本で間に合うわけですが、こんな身近な人の話題をとりあげていただけると興味をつないでいけると思います。

沼津市 大竹邦子 30代

♥女性がどのような問題に関心をもち、知りたがっているのかをキャッチし、魅力ある内容にしてほしいと思う。

浜松市 上田和子 30代

♥婦人のための事業紹介は「今までに行われた行事」「これから行われる行事」「常時行われているもの」に分けて、もっと充実した内容としてほしい。

浜松市 阿部初枝 60代
 ♥女の地位は今も誰かと闘って

勝つことでも、誰かからもうことでもない清々しさです。「自主・自立」という基本理念をふまえて行く自己との闘争が、女性の納得のいく「女性の座」を築き、その存在価値をより一層たかめてゆき、それが同じ大地を共に生きる者達お互いの「人間福祉」の世界にもつながっていく、行動できる時代がきました。

三島市 国東恵子 40代

♥この「ねつとわあく」では、講演会の内容の抜粋や、編集員の個性あるレポートを期待しています。女性の目からとらえた生きた情報や年輪を重ねた女性ならではの、どこかきらりと光ったもの、感動を伝えるものであってほしいと思います。それぞれの立場の人が知恵を出し合い、お互いをみがきあう情報誌として成長していくことを願っています。

みなさんのご意見を
 お寄せください。

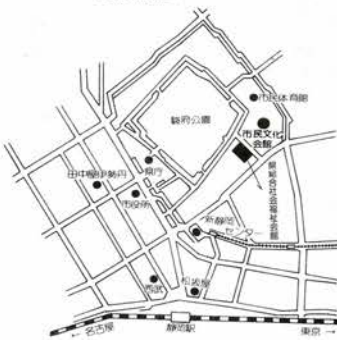
県総合社会福祉会館が

四月一日オープン

この建物の中に県婦人会館が設けられます。婦人のための研修室や会議室がつくられていますので、ご利用ください。



会場案内 静岡県静岡市東区2番90号
 市民文化会館



◆ 神と女の民族学 牧田 茂著

古代、神を祭る役割を担っていた女性がケガレていると、神や祭りから遠ざけられたのはなぜか。女性差別の原点を探る。
(講談社現代新書 四二〇〇円)

◆ 性差の文化・比較論の試み 青木 やよひ著

「女らしさ」の根拠は何か。男女の性差と性役割を見直しながら、日本社会の性や労働・家庭の在り方を問う。
(金子書房 一六〇〇円)

◆ 風 灯 火 阿部 初 枝著

けんめいに生きようとするのち、老人ホームの現場から見つけた人生の哀歓を暖かく、ユーモラスに描いている。
(ミネルヴァ書房 一三〇〇円)

◆ アメリカの男たちは、いま 下村 満 子著

婦人記者が一年余をかけて、過去十年、全米をゆさぶったウーマン・リブによって、制度的に虐げられたとする男たちの反乱をルポしたもの。(朝日新聞社 一二〇〇円)

◆ 女の子はつくられる 佐藤 洋 子著

全国の教育現場を取材した女子教育の現状と問題点。女性問題とは、つきつめれば女子教育の在り方の問題であるともいえそうである。
(白石書店 九八〇円)

◆ 六枚の肖像画 美尾 浩 子著

吉岡弥生、三浦環など、静岡が生んだ六人の明治の女たち。ひたむきで気骨なひとの内面にまで迫り、時の流れを越えて女が生きること問いかける。
(静岡新聞社 一二〇〇円)

お知らせ

この情報誌の五十八年度の「婦人編集員」を募集する予定です。募集要領は、四月号の県民だよりでお知らせします。ふるってご応募ください。

あとがき

*取材にあたって、二十年後の予測は、平和が続いてるならばの話と思う気持ちが絶えずつきまとった。

軍縮交渉が進まない。世界の各地で戦火が絶えないなどを聞くにつけ、戦争体験世代として、これで良いのかと、腰が浮き立つ。核戦争でもはじまると、ここまで育った女性の地位はどうなる。視野を広げて、やっぱり頑張ろう。次の世代にたくすまで。

*「光陰矢のごとし」月日の流れの何と早いことか。「ねっとわあく」の編集に参画して、もう一年。歳と共に衰えて来た思考力にムチ打ちながらの奮闘。

女であるが故のあきらめと、男性優位の社会通念に逆らわず、男には甘えていた方が得、なんてずいと考えて過ごしていた私を奮起させてくれた「ねっとわあく」。より多くの女性の社会参加の道しるべになってほしい。創刊号編集者の共通した願いでもあると思う。
(和田)

*「情報誌が氾濫している今、行政サイドでなければできない内容を盛りこみたい。そう張り切ってはみたものの、出来映えの程は？何しろにわか編集員の私としては、十時から

三時すぎまでの編集会議すら、終わってみると頭はボー、眼はショボショボ。でも、読んでいただける内容の文章をつづる作業は、自分を鍛え、みつめ直すことともなりました。人間いくつになっても、トライしてみるものですね。
(山形)

*「ねっとわあく」の編集に携わって一年。女性問題には全く門外漢であった私にとって、これでもかこれでもかと、疑問を提起、啓発してくる三人の県職員の方にタジタジ。時には「あの人本当は角が生えているのでは——」と思ったり。なにくそまけるものか、と読んだ本は五十冊近く。専業主婦というゆるま湯にひたり、半分眠っていた私には、強烈なパンチでした。目を覚まして、さア、前進、前進。
(大國)

*何をすることも「何と女性にとって生きにくい世の中なのだろう」と感じることに、これまでの人生の中でしばしば。しかし、この一年それよりもむしろ女性の生き方がいかに多様で可能性に満ちているか、つくづく知った思いがしています。となれば女性であること何たる幸。「経済的自立なくして女性の真の自立はありえない」ものかどうか、改めてその苦言(提言?)に挑戦してみる勇氣もわいてこようというものです。
(川辺)

表紙
静岡県浜松繊維工業試験場デザイン縫製研究室作成。
同研究室では、浜松市を中心とする県西部地方に一大産地を形成する繊維産業の発展の拠点として、デザインの開発研究、流行基調色やファッションの動向調査などを行っている。

婦人のための情報誌
「ねっとわあく」 第2号
昭和58年2月
編集・発行 静岡県生活環境部
県民生活課婦人対策室
〒420 静岡市追手町9番6号
電話 0542-21-2137